

Keiba Global Front Line



競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します

合田 直弘

4月5日にメイダン競馬場で行われるG1ドバイワールドC(d2000m)で、ダークホース的存在となっているインペリアルエンペラー(馴5、父ドウバウイ)が、今月のこのコラムの主役である。

同馬の母ズコヴァは現役時代、愛国のD・ウエルド厩舎に所属し、米国東海岸のG1マンノウォース(芝11F)を含めて3つの重賞を制した活躍馬だった。現役引退後の17年、同馬がタタソールズ12月市場の牝馬部門に上場されたところ、市場2番目の高値となる370万ギニー(当時のレートで約6億0412万円)でゴドルフィンが購買している。

ズコヴァの母(インペリアルエンペラーの祖母)ナイトタイムは、06年のG1愛千ギニー(芝8F)勝ち馬だ。そのナイトタイムの7番仔となる父ドウバウイの牡馬は、当歳だった15年秋にゴフス11月市場に上場されたところ、ゴドルフィンの代理人が110万ユーロ(当時のレートで約1億4659万円)で購買。ガイヤースと名付けられた牡馬は、通算で3つのG1を制覇、4歳となった20年には、ワールドベストホースに選出されるとともに、欧州年度代表馬の座を射止める活躍を見せた。

華麗な血脈を持つインペリアルエンペラーは、C・アップルビー厩舎から2歳10月にデビュー。ニューマーケットのメイドン

(芝8F)を3、1/2馬身差で制して初勝ちを果たした同馬に、翌年のダービーへ向けた前売りで11倍のオッズを提示するブックメーカーが現れ、クラシック候補の一角に浮上した。

だが、2歳冬から3歳春にかけて、同馬の成長過程は遅く、アップルビー師は5月初旬の段階で「ダービーには間に合わない」との声明を発表。6月末にニューマーケットで行われた条件戦(芝8F)で7カ月半ぶりに復帰した同馬は、そこを2、3/4馬身差で制したが、続くニューマーケットのLRサーヘンリーセシルS(芝8F)では勝ち馬から9馬身差の5着に敗退。すると陣営は即座に、同馬を去勢する決断を下し、手術が行われている。およそ1か月後にニューバリーで行われたハンデ戦(芝10F)でも5着に敗れ、インペリアルエンペラーの3歳シーズンは終了した。その冬をドバイで過ごした同馬は、4歳になるとメイダンで2戦。初戦となった1月のハンデ戦(芝1800m)では3着とまずまずの結果を残したが、2戦目となった2月のハンデ戦(芝1800m)では11着に敗退。この段階で、かつてはダービー候補と言われたこの馬を、ゴドルフィンは見限ることになった。インペリアルエンペラーは、3月26日に行われたレーシンググランドバイ市場に上場されたのである。ここ

で、英国を拠点とするシンジケート組織ディーヴァレーシングに30万ディルハム(当時のレートで約1259万円)で購買された同馬は、ドバイのフバット・シマー厩舎に移籍することになった。

こうして迎えた今季のドバイ開催。11月8日にメイダンで行われたハンデ戦(d1600m)で初めてダートを走ると、ここを2、1/2馬身差で制して1年5か月ぶりの白星をマーク。続いて出走した、12月13日にメイダンで行われたハンデ戦(d1600m)も、7、1/2馬身差で楽勝した。このレースぶりに意を強くした陣営は、1月24日にメイダンで行われたG1アルマクトウムチャレンジ(d1900m)を同馬の次走に選択。桁違いに強い馬たちを相手に、2着と健闘を見せた。

そして、3月1日のスーパーサタデーを舞台としたG2アルマクトウムクラシック(d2000m)を、インペリアルエンペラーは8、1/2馬身差で圧勝。重賞初制覇を果たした同馬は、G1ドバイワールドCに有力馬の1頭として出走することになったのである。

ゴドルフィンから「戦力外通告」を受けた馬が、わずかその1年後に、ドバイで最高峰と位置づけられているレースに挑戦する。果たしてどのような競馬を見せるか。日本の皆様もぜひご注目いただきたい。